

単元「だれもが関わり合えるように」15時間完了の14時間目

1 実践の特徴

(1) 総合学習発表会に向けた練習を国語とタイアップした実践

総合学習発表会に向けた練習は、今まで総合や学活で行ってきたことが多かった。それを「国語の教材を利用することで、より効果的に、より効率的に練習が行えるはずである」という本年度の校内現職教育の仮説に基づいて行った実践である。

(2) 本時の流れから実践全体の概要を知る

① 聞き手を引きつける発表の注意点の確認と個人練習

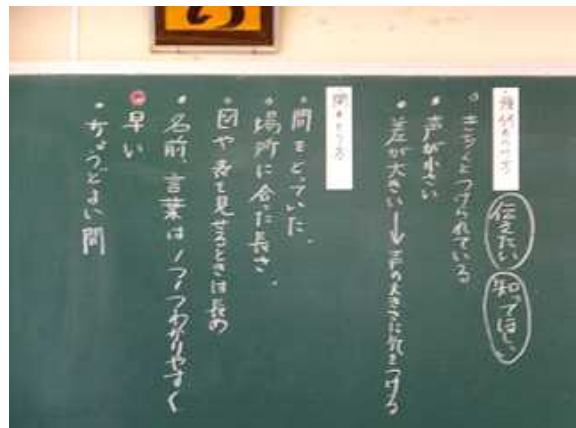
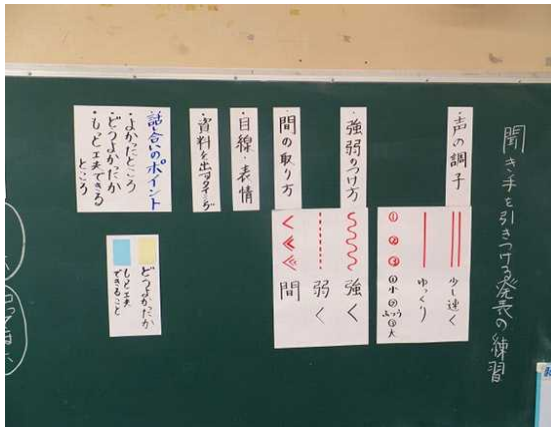


写真1【前時までの原稿読みの注意点を確認する】写真2【強弱のつけ方と間の取り方を研究する】

前時までに音読記号の付け方を学び、個人練習および隣同士での発表の聞き合いを1回行っている。それを受けて、本時の最初で「今みんなには、何に気をつけて、どう改善したらよいか」を確認し合った。

写真2から分かるように、「強弱のつけ方と間の取り方」についてさらなる改善策を児童等の発言を手がかりに見つけ出していった。そしてそれを頭に入れて個人練習を行った。



写真3【個人練習】

②原稿のチェックをし、隣同士で発表。結果を評価する



写真4【発表前に原稿の手直し！】



写真5【発表を聞きもらさないぞ！】

個人練習後は、原稿に赤ペンで音読記号を付け加えたり、修正を加える子がいた。

いよいよ2回目の発表。発表する方も聞く方も真剣な様子だった。

評価は○か◎の2種類。悪い評価をさせないのは、互いの努力を認め合う関係作りのため。こんなところにソーシャルスキルトレーニングの要素が盛り込まれていた。

その後全体で感想交流を行った。感想の内容を一部紹介する。



写真6【評価は○と◎でプラス評価を！】

A児の感想

初めて読んだとき、紙には「もう少しゆっくり読んだ方がよい」と書いてあって、2回目では、◎がもらえたのでよかったです。

B児の感想

高学年になると発表は増えると思いますが、今回やったことを生かして、5年6年でも、このことを使って発表していきたいと思います。

2 参観者の声

- 友達の発表について評価するという活動を通して、聞く力を育てる授業であったと思います。隣の席の子に対して温かい気持ちで言葉がけが出来ていました。「人の前で発表するのが好きになった」という子がいたので、全体発表に向けて大変よい手立てだったのだと思います。
- 音読記号が書かれたフラッシュカードを黒板に掲示していたので、子どもはいつでも確認出来て分かりやすかったと思います。発表を聞き合い、意見をふせんに書く際は、◎と○をつけさせることで評価しやすかったと思います。よいところに視点をおいていたので、誰もがほめられ自信をつけることが出来ていたと思います。
- 「きちんとってどういうこと?」「差が大きくてなにがいけないの?」「なぜ長くないとだめ?」など子どもの発言をただ聞くだけでなく、その意味を考えさせることで児童は深く考えることが出来ていたと思います。後感じたことは、間をとることの難しさです。「場に合った間」というものが少し難しかったのかなと感じました。

3 校内現職教育としての成果と課題

- 国語科はE S Dと連携しやすく、効果も上げられやすいことが確認された。今後は、このような実践を各学年が積み重ねることで、よりよいE S D活動につながっていくはずである。
- 2時間続きの実践の場合、そのうちの一場面を公開するという手法は、授業者も参観者も負担が減り、効果的である。ただ、指導案上に分かりやすく提示する必要がある。
- 指導案上に「認識の高まり場面」を本年度表示している。初めて指導案を見る者にとって、授業者の考えや授業の山場が分かり今後も続けていきたい。視点の内容については、「甚小E S Dの話し合いに役立つ思考スキル・定義・思考例」から探し出したものであり、今後も有効活用を図っていきたい。